



「協力的な方はいます  
が、ここは地域のないう  
校です。コミュニティ・  
スクールの指定はこれか  
らです。」

前任の校長先生からの引継ぎの言葉  
にややショックを受けたものの、では  
これが私の仕事であると受け止めた。

地域の人が出会う機会があれば、「学  
校に来てください。学校の施設を利用  
してください。」と訴え、地域との合  
同防災訓練を企画したり、世界スカウ  
トジャンボリーの行事に地域の方々に  
招いたりしたところ、多くの人々が学  
校を訪れるようになった。そうすると、  
子どもたちと地域住民とがふれあう機  
会が多くなり、子どもたちにとっても  
地域住民にとっても学校が楽しいとこ  
ろになってきている。コミュニティ・  
スクール指定、小瀬小応援隊の立ち上  
げを経て、学校と地域の活性化という  
目標に向けて、何をどのようにしてい  
けばよいのか、思いを巡らせていると  
ころである。

さて、そんな折、乙瀬小訪問という  
行事を行った。乙瀬小は平成十三年に  
本校に統合された学校である。校舎は  
本校より新しく今でも十分使用可能な  
施設である。乙瀬小訪問は、二年に一  
度、本校児童が旧乙瀬小を訪問し、地  
域住民とふれあうことをねらいとして  
いる。現在、乙瀬地域から本校に通っ  
ている子どもは一人もいない。そこで、  
地域の人々は「久しぶりに子どもの声  
を聞くことができた。」と大いに喜ん

でくださり、訪問の意義を感じるこ  
とができた。こんなに喜んで頂けるの  
らば、毎年訪問しても良いのではない  
か。毎年訪問すれば、これまで以上に  
意義のあるふるさと学習が仕組めるの  
ではないか。旧乙瀬小を利用して宿泊  
学習を計画することができないものか  
等、いろいろな考えが浮かんできた。

数日後、地域の人の  
案内で小瀬地域の  
探訪に出かけた。か  
つて小学校があった  
樋ノ口や持ヶ峠とい  
う地区を訪ねると、  
そこに暮らす高齢者  
はとても元気であっ  
た。しかしながら、  
子どもがいなくなり、  
学校がなくなり、廃  
屋が目立つ状況を見  
ると、とてもさびし  
い思いがした。現在、  
小瀬小のある地域も  
高齢化が進み、児童  
数が減っている。同  
じような道をたどっ  
ていくのかもしれない。  
しかし、学校も地域も  
元気であり  
続けるように、ふれあ  
いやつなかりを  
大切にしながら、今  
できる地域貢献に  
取り組んでいきたい  
と考えている。「学  
び・笑顔・元気いっ  
ぱいの楽しい学校  
くつながって」を合  
言葉に児童や教  
職員とともに励んで  
いきたい。

学校も地域も元気に ~つながって~  
岩国市立小瀬小学校長 山本 浩之

# 飛 耳 長 目

大津島へ赴任して  
周南市立大津島小学校長 海田 和彦



大津島は、人間魚雷「回  
天」の島として有名であ  
る。島は、周南市の徳山  
港から南西十キロ先に浮  
かぶ南北に細長い島である。島内には、  
約二百世帯、約三百人の人が住んでい  
る。長期休業中や土日祝日には、多く  
の観光客や釣り人が島を訪れ、賑やか  
になる。島へのアク  
セスも定期船の便数  
に恵まれ、気軽に訪  
問しやすい環境にあ  
る。

島では、趣味であ  
る夜空を見上げるこ  
とが、楽しくなっ  
ている。周りに灯りが  
ほとんどないせいか、  
季節を問わずダイヤ  
モンドを散りばめた  
ような星の輝きを満  
天に見ることができ  
るからだ。また、四  
季を通じて、折々の  
自然の豊かさを島の  
至る所で感じる事が  
できる。春は、満開の桜の木々の隙間  
から、歴史的遺産となつている「回天」  
の発射基地を望むことができ、夏には、  
海面に太陽の日差しがまばゆいばかり  
に反射し、子どもたちの賑やかなはし  
やぎ声と重なる。秋は、落葉樹の葉が  
淡い黄色から朱色へと変化し、時の経  
過を教えてくれる。冬には、道ばたに  
咲く白い水仙の花が、香りと共に道行  
く人の目を楽しませてくれる。  
そうした自然豊かな環境にある本校  
は、地域と共に運動会や文化祭を行っ  
ている。児童や教職員は企画・運営・  
準備等から一緒に活動しているの  
で、当然、地域の方々とのつながりは濃  
くなっていく。目を細めて子どもたちの  
演技をみて下さるおじいさんやおばあ  
さん、子どもたちに励ましの声をかけ  
て下さるおじいさんやおばあさん、久し  
ぶりに言葉を交わし、子どもたちとスキ  
ンシップをする島出身のお兄さんやお  
姉さん。こうした光景は、昔、私が成  
長してきた環境にどこか似ているよう  
で懐かしさを感じる。

ここ大津島の学校を巣立った子ども  
たちの多くは、島を離れ島外で生活す  
る。しかし、子どもたちはこの島での  
生活を誇りに思い、きつと心の拠り所  
となっているのではないかとと思う。地  
域とのかかわりを多くもつ中で、子ど  
もたちに、「自己有用感」や「自己肯  
定感」がしっかりとすり込まれ根付き、  
やがては自分に対しての大きな自信に  
つながっていくような感じがする。  
子どもたちが育っていく環境は様々  
であるが、成長していく過程で他者と  
のかかわりは大変重要だと感じている。  
子どもたちが、地域を大切に思い、何  
かあったときには地域から多大な力を  
受けることができる。そのような子ど  
もが育つ、地域に根ざした学校であり  
たいと思う。